



広島大学病院 ニュース

第5号
2005年7月

HIROSHIMA UNIVERSITY HOSPITAL
MEDICAL-DENTAL LIAISON NEWS



広島大学病院の理念

わたし達は、国民の健康と福祉の向上のために、次の理念を掲げています。

患者さま中心の全人的医療を行います。

優れた医療人を育成します。

新しい医療を開発します。



広島大学病院 副病院長
(教育研修担当)

茶山 一彰

副病院長としての抱負

平成17年4月より副病院長に指名されました。病院の企画運営に参加することにより、大学病院の医療の向上のためにがんばりたいと思います。

大学病院の使命は高度な医療を実施すること、医療人の育成を行うこと、新たな医療の開発に必要な研究を行うことです。大学病院での高度な医療の特徴は、最新の治療技術を駆使して一般の病院では難しいような病気を治療することだと思います。もちろん、大学病院でしかできない治療のみをするわけではありません。一般的な病気でも普通の病院で行われている治療と同じ治療をすることも多くあります。しかし、そのような場合でも、その病気に対してさらにより治療がないかどうか常に考えながら行ってゆきます。従って、大学病院に受診された患者さまにはいろいろ研究の協力をお願いすることもあります。そのような際にはお断りになっても何も不利益はありません。ご安心して医療をお受けください。また、若い医師や医学生の教育も行っていますが、上級医師がきちんと面倒をみていますのでこの点もご心配なく受診してください。

高度に進んだ医療を提供するからといって、特別な病院である必要はないのですが、大学病院は一般病院と比べて患者さまへのサービスの面で劣っているところがあるかもしれません。もし何かそのようなことでお気づきになりましたら、外来に投書箱があります。ご遠慮なくご意見をお伝えください。患者さまのご意見を生かし、よりよい医療を提供したいと考えています。



カット：波田真知子



広島大学病院 病院長補佐
(地域連携担当)

松本 昌泰

広島大学病院地域連携室の開設に向けて

この度、平成17年4月1日付けで病院長補佐（地域連携担当）を拝命いたしました。

広島大学病院は安心・安全な医療の提供はもとより、良き医療人の育成、高度の先端医学・医療技術の開発などの多くの責務を担っていますが、地域医療への貢献は最も重要な責務の1つです。

近年の多様化する医療需要の変化により、地域医療への貢献の実現には、病院と診療所、病院と病院の緊密な連携（いわゆる病診、病病連携）を通じた適切な機能分担体制の構築が、ますます重要性を増しています。こうした状況をふまえて、本院においても、地域の医療・福祉・保健施設等と適切な連携を図り、本院と他の地域医療機関との緊密な連携協力体制を一層充実させることが必須となっています。

このような医療ネットワーク体制を充実させ、患者さまやご家族に対し、シームレスな支援を行うとともに、信頼性の高い医療サービスを提供するために、これまでの医療社会福祉部の機能を発展・拡充させ、より細やかな退院支援の実現とスムーズな患者受入が可能となるよう「地域連携室」（英語名はClinical Referral Network Office (CRNO))を設置することとなりました（6月1日に開設される予定）。

この地域連携室では、医師、看護師及び医療ソーシャルワーカーが緊密に連携して、入院患者さまの退院に向けた支援や、患者さま・ご家族の経済問題や制度利用に関する相談への対応、並びに地域医療機関からの患者さま紹介に関する受付を主な業務として取り組むこととしております。

本院と地域医療機関の連携を推進するパイプ役として努力してまいりたいと存じますので、みなさまのご理解とご協力をなにとぞ宜しくお願いいたします。



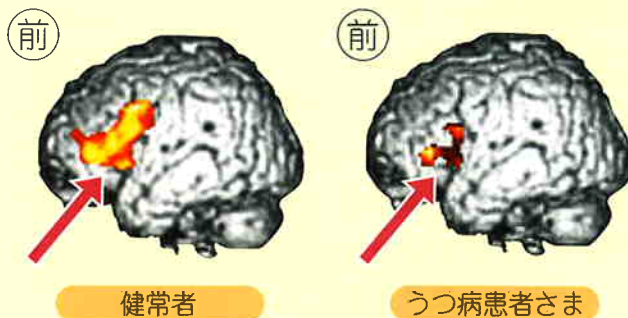
うつ病の新しい検査、 治療法の開発

脳機能画像検査を用いた新たな戦略

うつ病は「こころのかぜ」とも称され、決して珍しい病気ではありません。一生涯のうちに、6~7人に1人の方がかかるとも言われています。しかし、きちんと治療すれば治る病気です。また、早期発見・早期予防も大切です。

私たちは、日々の臨床にたずさわりながら、一方でうつ病の検査や治療の新たな開発にも取り組んでいます。そのなかで、現在トピックとも言える、機能的磁気共鳴画像検査（以下f-MRI：functional magnetic resonance imaging）についてご紹介します。

これまで「頭の検査をしましょう」と言われて通常行う画像検査はCTやMRIというものが思い浮かぶと思います。それらはもちろん頭の中の構造を調べるもので、脳出血や脳梗塞、脳腫瘍などを調べるのにはよいのですが、脳の働き具合ということに関しては充分分かりません。このf-MRIは、脳の働き具合を視覚的に調べることができます。たとえば、言葉を連想したりしている時に、脳の中では主に前頭葉と言われる場所が活動しています。その時にf-MRI検査をすると、前頭葉の血流が増えている、すなわちよく働いていることが分かるのです。うつ病患者さまに協力していただき、この検査をしてみると、図のような結果が得られました。前頭葉の働きが低下していたのです。したがって、前頭葉への刺激（最近よく「頭を鍛えるドリル・・・」などみかけますが）を行えばうつ病の治療につながるのではないかと、またこの検査を効果的に行うことでうつ病の早期発見・早期予防につながるのではないかと期待しつつさらに研究を重ねているところです。



脳を三次元で表し、左の側面から見ているところで、向かって左が前、右が後ろです。黄赤色が脳がよく働いていることを示しています（ピンク色の矢印）。

健常者と比較し、うつ病患者さまでは働き具合が低下していることが分かります。

精神科では、今回ご紹介したもののだけでなく、心の病気全般にわたって対応しています。

なお外来においては、気分障害、摂食障害、睡眠障害、思春期の専門外来を設けています。ご質問やご不明の点がございましたら遠慮なくご連絡ください。



精神科外来 Tel 082-257-5479

親子でそだてる GENKIな歯

— 小児歯科のご紹介 —

科長 香西克之

小児歯科の診療室は歯科外来棟の4階にあります。来院される子どもの年齢は赤ちゃんから大学生まで広い年齢にわたっています。どんな診療科なのか、その内容を紹介してみます。



歯科外来棟4Fの小児歯科診療室 香西教授(左)と鈴木助教授

小児のむし歯

来院動機の約4割は、むし歯の処置や予防です。小児のむし歯罹患率は減少してきていますが、依然として多発性むし歯の小児も来られます。低年齢児の重症むし歯で多いのは哺乳びんにスポーツドリンクなどの酸性飲料(pH3~4)を入れて夜間授乳することが習慣化するケースです。熱性疾患のときなどに飲むのはよいのですが、習慣化しないよう気をつけたいといけません。また歯科に怖いイメージを持つ方もかなりいらっしゃると思いますが、Washington大学のWeinstein博士は「歯科恐怖症を予防する一番の方法はむし歯を作らないこと」と述べているように、歯科嫌いをなくすためにもむし歯予防がまず第一といえます。当科では、むし歯リスク検査と小児の成長環境に応じた専門的な口腔ケアを提供しています。

咬合誘導

次の来院動機として多いのが、歯並びや噛み合わせの治療希望です。健全な永久歯列の育成を目的として乳歯列期、混合歯列期に行う咬合誘導治療には、正しい診断が求められますが、模型分析による側方歯群長のスペース予測も検査の一つです。現在、口腔内小型スキャナーによってパソコン上に歯列状態を取り込み、歯列分析をわずかな時間で行えるシステムを開発中です。

歯の外傷

最近、歯の外傷で来院される小児も多くなっています。当然ではありますが、小児の歯の外傷の場合、成長発育を考慮した専門的処置を必要とします。1~2歳、7~8歳が歯の外傷年齢といわれていますが、子どもたちの運動能力の発達が以前より劣ってきていることも歯を打

撲しやすいことと関係があるかもしれません。またスポーツ医学の観点から、小児のスポーツ活動にもマウスピースの装着が勧められています。

その他の専門領域

若年層での歯周疾患に対する関心が高まっています。歯周病関連菌の小児期での定着、成人の歯周炎への移行などの研究を進めており、今後PCR法を用いた菌種の特定により小児口腔への伝播、定着、成人歯周炎への移行の解明を目指しています。さらにこれまで行ってきた、むし歯菌(ミュータンス菌)の家族内伝播の研究も含め、感染の理論をベースとした妊婦への口腔保健指導、乳児期からの定期的な口腔診査、家族単位のむし歯予防や歯周病予防といったライフサイクルでの口腔管理システムの実現を目指しています。



小児科病棟での往診治療

一方では、若い先生の研修機関としての役割もあります。一般の診療所にも小児歯科の自由標榜は多くなってきましたが、専門に研修を積んだ小児歯科認定医の数は少ないのが現状です。今後、専門医制度の実施も予定されており、優秀な認定医、専門医の養成にも力を注いでおります。

近年、保護者の歯科知識も非常に豊富になり、小児専門の歯科医療への期待もますます高まっています。小児口腔の健全な成長発達を目指して日々診療に力を注いでおりますので、治療のご希望、あるいは地域、施設での啓発活動などに関するご相談がありましたら、是非ご連絡下さい。<kozai@hiroshima-u.ac.jp>

小児歯科のご案内

再診受付 月曜日~金曜日
9:00~12:00, 13:00~17:00 (予約制)

(初診は9:00~12:00, 急患は時間外でも受け付けます)

一般外来

小児のむし歯、不正咬合、歯の外傷の治療、
定期健診、不協力の歯科治療と口腔管理、^{など}

専門治療

有病児・(知的)障害児の歯科治療と口腔管理、
埋伏(過剰)歯の処置と咬合誘導、むし歯リスク検査
小児歯周病、小児の歯科心身症、レーザー歯科治療、^{など}



お問い合わせ Tel 082-257-5775

検査部 のご紹介

検査部では病気の診断や治療効果判定のために総合的に臨床検査を行っています。
場所は中央診療棟2階です。臨床検査は検体検査部門と生体検査部門に大別できます。

検体検査部門

- 1 血液検査室** (中検2)では貧血、血液凝固系の検査を行っています。
- 2 化学・免疫検査室** (中検4)では血清脂質、腎機能、肝機能、糖尿病、痛風、免疫機能系や便潜血検査を行っています。
- 3 遺伝子検査室** では先進の遺伝子検査を行っています。
- 4 微生物検査室** では患者さまから採取した材料から感染症の原因となっている細菌を検出し、どのような薬が効くか、などの検査を行っています。
- 5 中央採血室** では併科受診しても1回の採血で済み、かつ患者さまのプライバシーを守ることができるように採血を行っています。写真1はその風景です。
- 6 緊急検査室** では中央診療棟3階で24時間体制で緊急を要する検査を行っています。



写真1 新設の中央採血室。採血台が5台ならぶ。検体は直接検査部に届けられ、データは直ちにコンピュータ画面で報告される。

写真2 心電図検査

写真3 超音波検査

生体検査部門

- 1 生理検査室** 心電図、脳波、呼吸機能や超音波の検査をしています。写真2、3は心電図や超音波を検査している写真です。心電図や脳波は生体内で発生している微弱な電気現象を皮膚などに装着した電極から取り出してグラフ化し、超音波は体内の様子を映像化して視覚情報として臨床に応用しようとする検査です。

我々は病院の検査と検査関連の研究を担当し、神辺教授以下5名の医師スタッフと板羽技師長以下35名の検査技師を擁しています。検査部門は最新の機器類をそろえ、診療に必要なほとんどすべての検査を院内で行っています。大学病院は、研究施設としての側面をもちますので、他の病院ではおこなっていない遺伝子の検査や、新しい検査の研究開発や情報発信をおこなっています。

さて、最近、検査部の関連で大きなニュースが二つありますのでここでご報告します。

NEWS 1

中央採血室の設置と採血結果報告の迅速化 —40分で結果。治療へ反映。—

従来、採血は個々の診療科でおこない、その血液サンプルを係が検査部まで運搬するシステムでしたが、その効率の悪さから、採血当日に結果を報告することが、困難でした。

この点を改善するため病院のリフォームが行われ、平成16年1月、中央採血室が新設されました。採血場所を1箇所に集約することで、結果報告までの時間が大幅に短縮されました。さらに、検査オーダーを、医師が前もって入力しておくことで、患者さまは朝一番、直接採血室へ行き、診察の時にはその結果をみて治療や薬を調節するということが可能になりました。結果がでるまでの待ち時間は早いもので10分前後、概ね30～40分位です。

中央採血室立上げ時には、採血者の経験不足から何度も針を刺すようなこともありましたが、皆さまの暖かい支援のおかげで、技術が向上しています。医師にも好評で中央採血をご利用いただく患者さまの数は増え続け、現在毎日300名を超える患者さまが採血にこられます。

NEWS 2

中央採尿室の新設

検尿は診察の基本で、簡単だが重要な検査です。広島大学病院では検尿検査は従来、各診療科バラバラにおこなわれており、検尿が常時必要でない診療科では、手軽に検査できないなど、病院としては不備な点があったと思います。この点を改善するため、現在中央採尿室の新設と専用トイレの改修が同時進行中です。患者さまのプライバシーを充分配慮した構造です。検査部は、検査業務の1部門としてその運営を担当します。

場所は外来棟の2F、中央採血室のとなりで、尿自動分析装置と尿中有形成成分分析装置の2台が稼働する予定です。この中央採尿の運用開始は7月下旬の予定です。

病院検査部として患者さまのサービス向上は我々の最大の使命と考えております。今後も、診療支援体制の充実とよりくんでいく所存です。

地域連携歯科医療部

地域の医療・介護・福祉サービスの方と連携し
患者さまの治療にあたります

こんな患者さまを治療しています

1. かかりつけ歯科医・かかりつけ医からのご紹介。
2. 介護保険施設や福祉施設にいらっしゃる高齢者や障害者の方で、歯科医院に通院できる環境にない方。
3. 在宅の高齢者や障害者の方で、歯科治療を受ける環境にない方。
4. 病気や心身の障害などの理由で訪問や通院による治療が難しい方。
5. その他の理由によって通院による治療が難しい方。



地域歯科医療の支援を目的に在宅訪問と施設等での検診活動を行っています。歯科医師と看護師がチームになって訪問し、患者さまやご家族と一緒に治療計画を考えます。そして、往診治療・大学病院での入院・通院治療を円滑に行うために、医療・介護・福祉サービスの方々と連携を図っています。また、在宅での嚥下訓練や食事指導、口腔ケアなど口腔機能改善の支援も行っています。治療後、患者さまやご家族から、「こんな身体で治療ができてうれしい」「たくあんが食べられた」「食べるのが楽しみ」「笑顔がでた」「外出に自信が出た」等のうれしい言葉が寄せられています。このような活動を通じて、患者さまの口腔機能の改善やQOLの向上を目指して行きたいと思っています。



歯科医師と看護師がチームで在宅訪問し治療計画を相談しています。



施設にて歯科検診中の歯科医師です。同施設の職員が介助しています。

ご連絡・ご相談窓口:地域連携歯科医療部 Tel 082-257-5708 Fax 082-257-5710

2005年8月に被爆60周年を迎える広島。
被爆地の大学病院をステージに
医療とは何か、芸術とは何かを問いかける。

「医療と芸術」展

“Medical Treatment and Art” Exhibition

会期

平成17年

9月2日(金)~30日(金)

会場

広島大学病院,
医学資料館等 霞キャンパス一帯
広島市南区霞一丁目2-3

趣旨・目的

○広島大学病院の理念に掲げている患者さま中心の「全人的医療」を基にヒロシマの地において「医療と芸術」をテーマに私達が地球人として共に生きていく道を考え、安らかな平和な心を持って行こうとするものです。
医療とは何か。芸術とは何か。医療と芸術を結び、全人的医療に貢献できる新たな領域を切り拓こうとするものです。

内容

- 広島は2005年8月に被爆60周年を迎えます。被爆地の大学病院をステージに医療とは何か、芸術とは何か、を問いかけるものです。
- 現代美術の多様な作品に触れ、生きていくことを見つめなおして行こうとするものです。
- 院内学級の生徒達の作品と広島大学病院と関連のあるカザフスタン共和国等海外の子供達との作品の交流を予定しています。

■出品作家

須田悦弘,
広島市立大学芸術学部助教授 伊東敏光,
同大学院 長岡朋恵, 手取実咲,
広島大学大学院教育学研究科講師 ばんばまさえ,
Mendel Jonkers (オランダ), Ashley Dean (イギリス),
山崎由美子 (大阪), 原仲裕三, ミノル・カサネ,
赤岩史子, 瀬戸理恵子, 高橋佳江, 福田恵, 三木俊治,
水島かなえ, 戸川幸一郎, 桑田覚, 野村敦, 神田博史,
櫻井友子, 等

■音楽

女性コーラスグループ,
バイオリン・オーボエのソリスト,
霞室内管弦楽団, 等 (その他交渉中)

主催 「医療と芸術」展実行委員会
(実行委員長 越智光夫)

事務局 「医療と芸術」展実行委員会事務局

●〒734-8551 広島市南区霞一丁目2-3

●広島大学病院総務グループ・近藤

●Tel : 082-257-5014

●E-mail: hkondo@hiroshima-u.ac.jp



広島大学病院のホームページのご紹介

分かりやすく見やすいページづくりを心がけていこうと思っておりますので、引き続きご愛顧のほど、よろしくお願いいたします。

■ご意見やご感想を下記へお願いいたします。

広島大学病院 広報委員会 (総務グループ広報担当)

〒734-8551 広島市南区霞一丁目2番3号

Tel 082-257-5555 Fax 082-257-5087

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/index.html>